

## 「市長と区自治協議会委員との意見交換」の概要

テーマ 『秋葉区の特徴を活かしたまちづくり』

- ・日時 平成 19 年 6 月 7 日 (木)  
午後 3 時 40 分 ~ 4 時 35 分
- ・会場 秋葉区役所 401 会議室
- ・意見発表者数 4 名
- ・参加者数 20 名

【意見発表】『『美しい日本，夢創り，新・新潟市総合計画，秋葉区ビジョン』をキーワードとしたまちづくりについて』

これから地球温暖化問題を考えていかなければならないと感じている。

区ビジョンで良好な住宅地を目指しているようだが，それならば新潟市・新潟県で一番を目指したい。その中で，商工業・農業の振興を図りたい。地域特性を活かした交流の中でも，地域経済とどう結びつけるか，知恵の出どころである。

文化会館については，秋葉区に合唱団を 300 団体づくり，各団体が全国の合唱団と交流していくような運動の中核センターとなるようなものにしたいと考えている。

新潟薬科大学の学生との交流を「同好会サポート制度」を設けて進めて行きたい。地域の事業者と学生を結びつけ，交流を図っていきたいと思っている。

秋葉区に「運動会の殿堂」のようなものを作りたい。市外，県外，国外から自治体などを招いて大運動会のようなものができるグラウンドを整備し，秋葉区に人を集めたい。運動会専用グラウンドはおそらくどこにもない。こういった切り口での魅力づくりもおもしろいのではないか。

【意見発表】『新潟薬科大学と区民が双方メリットとなるようなまちづくり』

新潟薬科大学と秋葉区をどのように結び付けていくか。一部の学生は秋葉区のイベントなどに参加しているようだが，学校全体としてはまだまだ課題もあり，秋葉区に根ざした活動とは言えないと思っている。

区内あるいは他区との係わり合いの中で，若者（30代）の横の連携を使って何かするようなことはないか。市長として私たち30代の者に期待すること，求めるようなことがあればうかがいたい。

私にとって秋葉区は，バイオリサーチパーク構想であるとか，花と緑，あるいは里山といったイメージがあるが，市長は対外的に秋葉区の魅力はどう表現するのか，市長の秋葉区に対するイメージはどのようなものかうかがいたい。

(市長)

新たな特色づくり，魅力づくりは大事である。秋葉区はどうなりたいのか，夢を語り，意見交換をし，ひとつの方向がでてくる場として自治協議会が機能すれば，それは大変すばらしいことであるとする。

市内で，県内で，国内で，そして世界で一番といったものを目指すことは目標を持つという面においても大事なこと。そういった目標を目指してそれぞれの区で競い合うといったことも良いのではないか。

文化会館についてはお約束したものであるから，(中核センター的な機能の)箱は市として作る。一番大事なことはその機能を最大限活用し，その箱の有効活用，さらには管理運営のところではできるだけ行政が関わらないで地域の方にやっていただくということが付加価値を付けていくという意味で重要であると思っている。

大学生との交流の中で「同好会サポート制度」をご提案いただいたが，もう少し中学生なども意識をして，商店街との結びつきも大学生だけでなく小学生や中学生とも結びつくといった試みもおもしろいのではないかと思う。そうすることによって，地域への愛着など副次的な効果もあらわれるのではないだろうか。

運動会は日本の生んだ高い文化であるという人もいる。区対抗運動会など楽しそうである。

大学生は地域の元気を引き出す先導役みたいなところがあるので，われわれとしてはどういう風に大学生をその気にさせるか，そこに地域の知恵も試されるのだろうと感じている。

大学生が地域に暮らすということは地域にとって元気がでてくるし，例えば大学生を町場に住まわせてどういう風に薬科大に通わせるかとかというような提案を皆様方から考えていただければ，公共交通強化といったことにもリンクさせやすい。区バスの利用率アップにもリンクさせて考えるのもおもしろいのではないか。

30代の人に地域に関心をもってもらうためにどうしたらよいか，われわれも考えているところである。地域が世代を超えてひとつのことに取り組むということが大事で，そのとき20代の学生はある程度参加してもらうことはできるが，社会人はなかなか難しい。こういうことをやるから30代集まれというのは行政がやるとみんな引いてしまうので，コミュニティ協議会や地域の団体などから呼びかけるといえることができればおもしろいのではないか。

旧新潟市から見れば，新津や小須戸の魅力はやはり緑，里山。新津は暮らしやすいと言われたことがある。暮らしやすいということは相当良い文化の素地

があるのではないかと思う。そういったものと国内で一番，世界で一番と誇れる文化がどうリンクできるのか考えてみたい。

1～2年で「秋葉区はこれだ」という方向を決めてやってみる。そしてやりながら方向を微調整していくというようなことで考えている。まずはこの1年，皆さんで考えていただきたい。

【意見発表】「子育て支援について」

秋葉区は子育てするにはとても良い環境だと思う。

今の子どもたちがずっと住んでいたいと思うような区にしたい。大学などで県外に出ても戻って来ることのできるようなまちづくりが重要。

行政のできることと区民のできることを見極め，区民力を最大限引き出せるように進めていくことが大事。

各区で統一すべきことのほかに，区独自の支援ができる方向にしていきたい。

秋葉区での実践例も参考にしながら「子どもを安心して産み育てられる新潟市」と全国にPRしていただきたい。

【意見発表】「コミュニティ協議会について」

行政側の誘導や押し付けばかりであったり，また市民も批判や陳情ばかりであっては自治協議会やコミ協設立の趣旨から遠くなる。

設立されたばかりで館（事務所）を持たないコミ協が多い。すべてのコミ協に事務所・事務室を考えてほしい。

活動が盛んになると予算も多く必要になるが，財政的に厳しい。支援策の強化を要望する。

合併建設計画と新・新潟市総合計画との関係をうかがいたい。

「小さな市役所，大きな区役所」というが「大きな区役所」とはどのような区役所なのか。

(市長)

コミ協に事務所・事務室が必要ということは当然のことと考える。現在調査をして，既存の施設や学校が利用できないか考えている。

コミ協は自主組織であるので，行政としてどこまで関われるか距離感が難しい。そういう意味で西区の取り組み（政策企画課以外の職員を2名ずつ各コミ協の担当にする）は興味深い。分権型職員の育成という施策の位置付けである。こうしたことを踏まえて，コミュニティに関心のある職員を募り，研修させたいと考えている。

今後コミ協には大いに学校と関わって行っていただきたい。学校に対して「地域に開かれた学校を目指してください」と言っているので、本当に地域に開かれているか試みていただきたい。

ほとんどのコミ協が活動初年度なので、本年度は若干の運営費とモデル事業として明確に示された事業に対して特別活動支援金を差上げたいと考えている。あるいは、公募型補助金というものもおこなっている。来年度になったら、地域にとって良い活動をしているところには有償ボランティアの形で本格的に活動支援金を差上げたいと考えている。活動の活発なところには多くの支援金をだすということは不平等ではないと考える。

合併建設計画については基本的に遂行するが、皆さん方にも行政区になったのだから見直すとか、事業によっては後年度に遅らせるとか、そういったことを考えてほしい。行政としても見直しのポイントを整理して言い出すべきなのではないかと思う。合併建設計画に盛りされていない緊急度が高い事業などはすぐにやるにしても、ほかの部分であとに遅らせてくれといったお願いを行政側からするかもしれない。そういったものを早めに整理をして皆さんと意見交換をしたいと思います。

大きな区役所とは、例えばさきほどの意見にもあったが、「秋葉区として子育てを重点的にやっていきたい。マンパワーやノウハウを持った秋葉区でやれば、ほかの区でやるよりずっと良いですよ」という提案がなされ、自治協議会の皆さんの大半がそういうベクトルで進むということでまとめ、区長がそれやりたくなったときに、そういった事業をすることができるといったものであると考えるし、目指していきたい。これは競い合いである。特色ある区づくり予算もはじまっているが、意欲があって、ノウハウがあって、実績を積み上げ伸びていく区があり、それをみてほかの区が追いついていくということで(新潟市)全域が良くなる。このようなこと(方向)を区長が言うことができ、それを踏まえて具体的なこと(取り組み)を課長が言える、それが大きな区役所ではないかと思う。合併して2年間は、できるだけ統一していきましょうと言いがちであったと思うし、そういう意味で本庁の担当課を見がちであったが、これからは地域を見て、その中から課題を拾い上げ、区でいち早く解決する、秋葉区が解決すればほかの7区もついて来るといった考え方であると思う。区の中には政令市役所を見て、おうかがい根性、横並び根性を捨てきれない部分が多くあるが、これからは職員に対して、そういった意識を捨てるよう言っていくつもりである。